



かけはし

Vol.
205

峡南教育事務所 News Letter

令和八年度 峡南地域教育推進連絡協議会
依田 智 新会長 あいさつ

峡南地域の教育を支える峡南地域教育推進連絡協議会の会長を引き受けすることになりました。重責に身の引き締まる思いとともに、地域の皆さまと共に子どもたちの未来を支えていけることを光栄に感じています。

本地域では、幼児及び児童生徒数の減少が続く、園や学校の統合が現実の課題となっています。長年親しまれてきた学びや育ちの場が変わることに、不安を覚える方も多いと思いますが、子どもを真ん中に据えた「地域の力」が結集することで、新しい育みとつながりを生み出せると信じています。

今、子育てや教育の世界では、学力テスト等に表れにくい「非認知能力」の重要性が注目されています。自分を大切に思う気持ち、最後までやり抜く力、人と協力する姿勢などは、地域とのかかわりの中でこそ育まれます。地域行事やボランティア活動、世代を超えた交流は、子どもたちの心の土台

発行: 峡南教育事務所
(南巨摩合同庁舎2階)

南巨摩郡富士川町鯉沢771-2
TEL:0556-22-8154
FAX:0556-22-8144

HPからもご覧になれます。QR→



目次:

R8年度 地推協
依田 智 会長 挨拶 1

教育フォーラム

ことぶき勤学院
だより 2

思春期体験学習
(富士川中)
プロジェクト・ダウン 3

中高連携事業
びゅあ峡南 事業 4



を豊かにする大切な機会です。一方で、通信制やオンライン教育など、教育形態は多様化し、学びの選択肢は広がっています。その中にあるのも、子どもたちが毎日を過ごす園や学校には、顔を合せて学び合う場として大きな意義があります。教室での対話や友だちとの遊び、先生や地域の大人との関わりは、子どもたちを大きく成長させてくれます。

これからの園や学校は、地域とつながり、多様な学びの拠点として開かれていくことが求められます。峡南地推協は、この情報誌名のとおり、園や学校と家庭、地域をつなぐ架け橋として、情報発信と交流の場を広げていきたいと考えています。子どもたちの笑顔あふれる未来のために、地域の皆さまと力を合わせて取り組んでまいります。どうぞ皆さまのお力添えをお願いいたします。



依田 智 会長

峡南地域教育フォーラム 『部活動地域展開の展望』



八月十九日に峡南地域教育推進連絡協議会主催による峡南地域教育フォーラムが開催され、「部活動地域展開の展望」をテーマとした講演会が行われました。

講演では、少子化の進行や教員の働き方改革などを背景に、学校部活動を取り巻く環境が大きく変化している現状が示されました。その中で、山梨県が進める部活動改革は、単なる地域移行ではなく、「地域の子供たちは、学校を含めた地域で育てる」という理念のもと、生徒が将来にわたるスポーツや文化芸術活動に親しむ機会を確保することを目指していることが説明されました。

また、生徒の多様なニーズに応じた活動環境の充実に向け、学校・家庭・地域・行政が連携して取り組むことの重要性や、指導者の確保・育成、安全な活動環境の整備などの課題についても紹介されました。

参加者にとって、地域全体で子どもたちの成長を支える意義と、持続可能な地域クラブ活動の在り方について考える貴重な機会となりました。

残暑の中にも朝夕に秋の気配が感じられる頃となりました。澄んだ空の下、様々な学びや体験が実りへとつながる時期です。皆様の健やかな日々をお祈り申し上げます。

峡南地域異校種連携・子育て学習会のご案内

11月13日(金) 14:00~16:30

市川三郷町生涯学習センター

『子どもの「自己肯定感」を

どう高めていくか』

山梨大学教育学部准教授(心理学)

田中 健史朗 氏



ことぶき勸学院だより

◎フィールドワークの基礎知識

(二年生)

六月九日(火)、山梨大学の菊地淑人准教授をお招きし、「フィールドワークの基礎知識」と題した講座を開催しました。菊地氏は、文化資源や文化的景観、観光・地域づくりを専門とする立場から、歴史や文化を通して地域の魅力を読み解く視点についてご講義くださいました。自然や建造物、人々の暮らしが織りなす「文化的景観」を総合的に捉えることの大切さや、「地域らしさ」は人々が価値を見いだし受け継ぐ中で育まれるものであり、地域の要素も価値を見いだし伝えることで初めて資源となるというお話は、大変示唆に富むものでした。



また、フィールドワークでは事前準備が重要であり、目的の明確化や調査対象の整理が調査の充実につながることもご教示いただきました。本講座は、身近な地域を新たな視点で見つめ、その魅力を主体的に捉えるための有意義な学びの機会となりました。

◎地域を創る「身延町の文化財」

「ハンセン病」(一年生)

六月十二日(金)、身延町教育委員会の深沢広太様を講師に迎え、「地域を創る」をテーマとした講座を開催しました。前半は、身延町の文化財や豊かな自然、歴史、人についてご講話をいただき、地域の魅力とその価値について理解を深めることができました。後半は「ハンセン病」をテーマに、その歴史的背景や、網脇龍妙上人が身延深敬園を設立するに至った経緯についてお話をいただき、人権尊重の大切さを学びました。

現在の取組として、身延深敬園の資料を身延町固有の文化遺産として保存・継承し、人権教育の素材として活用していきたいとお考えも示されました。

互いの人権を認め合い、守り続けることの大切さについて、改めて考える貴重な機会となりました。



◎暮らしの経済

(一年生)

山梨を再発見する
山梨の課題・魅力・可能性とは

七月十日(金)、山梨中銀経営コンサルティング株式会社の小柳哲史様を講師にお迎えし、「山梨を再発見する」をテーマとした講座を開催しました。講座では、①山梨県の産業構造、②県内の景気動向と暮らしの経済、③山梨県の課題・魅力・可能性について解説していただきました。

本県は、面積や人口などの面で決して恵まれた条件にあるわけではないものの、そのような制約を知恵と工夫で補いながら発展を遂げ、日本経済に貢献してきた歴史があることを学びました。また、お金との向き合い方については、単なる浪費と人生を豊かにするための消費は異なることや、価値ある支出は生活の充実につながることも紹介されました。

さらに、県外の人々から見た山梨の魅力や強みについても紹介され、豊かな自然環境や首都圏へのアクセスの良さなど、山梨が持つ可能性について理解を深めました。講座の最後には、「なぜできないのか」ではなく、「どうすればできるのか」と前向きに考えることの大切さが語られました。本講座を通して、受講者は山梨県の現状や特色、将来の可能性について理解を深めました。



◎日本文化を楽しむ

(一・二年生合同)

「触れてみましょう！能楽の世界」

八月四日(火)には双葉ふれあい文化館において、佐久間二郎様(能)と鳥山直也様(小鼓)を講師に迎え、能楽に親しむ講座を開催しました。佐久間様は甲府市出身の能楽師で、重要無形文化財総合認定保持者として活躍するとともに、長年にわたり山梨県内外で能楽の普及に尽力されています。



講座では、まず能楽の歴史や舞台の構成、能面や装束の役割などについて、分かりやすく解説していただきました。続いて鳥山様から小鼓の特徴や演奏法について説明があり、参加者は実際に音を出す体験を通して、その奥深さに触れました。さらに、佐久間様の指導のもとで能の基本的な所作や動きを体験し、伝統芸能を「鑑賞するもの」から「体感するもの」として学ぶ貴重な機会となりました。動きの中に込められた意味や、美しい姿勢を保つ難しさに触れ、能楽の奥深い世界への理解が一層深まりました。参加者は、日本が誇る伝統文化の魅力を身近に感じるとともに、能楽の精神や美意識に触れ、その文化的価値を改めて認識する有意義な時間を過ごしました。

思春期体験学習

峡南地域の中学校で行われている思春期体験学習は、命の大切さや将来の生き方について実感を伴いながら学ぶ教育活動です。学校・行政・地域が連携して取り組む本事業は、生徒一人ひとりが自分自身や他者を大切にすることを育むとともに、生命の尊厳や家族の絆について理解を深める貴重な機会となっています。

富士川中学校では、六月二十日に本学習の一部を実施しました。「親子まなびDay」として位置付けられ、保護者も参加する中で、命の始まりと胎児の成長の過程を学ぶとともに、誕生後の発達や成長を支える家族の役割への理解を深めました。また、LGBTQへの理解、デートDVの防止、性的同意の重要性など、自他を尊重した人間関係の在り方についても学びました。講師からは、生命の誕生から成長に至る過程や、一人ひとりの人権を尊重し、多様な価値観や生き方を認め合う大切さについて話があり、生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。



その後、生徒たちは妊婦体験に取り組みました。専用の装具や重りを身に付け、起き上がる動作や物を拾う動作、歩行などを体験することで、妊娠中の身体的負担の大きさや周囲の支援・配慮の重要性について理解を深めました。体験後の振り返りでは、「命は多くの人に支えられて育まれていることが分かった」などの感想が聞かれ、学習の成果がうかがえました。

九月には、本学習の中心的な活動となる赤ちゃんふれあい体験が予定されています。実際に乳幼児とその保護者を学校に招き、赤ちゃんに触れ合うことを通して、命の尊さや育児の大変さ、家族の愛情についてさらに学びを深める予定です。赤ちゃんのしぐさや表情、保護者との関わりを間近で見ることができる貴重な機会です。

このような思春期体験学習は、生徒たちが自分自身の命を見つめ直すとともに、他者への思いやりや感謝の心を育む有意義な機会となっています。峡南地域の他の中学校においても十月から十一月にかけて同様の学習が予定されており、地域全体で子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む取組として、その成果が期待されています。

プロジェクト・ダーウィン 「親子サイエンスキャンプ」



早川町教育委員会主催による「プロジェクト・ダーウィン親子サイエンスキャンプ」がこの夏開催され、小学生とその保護者が、早川町の豊かな自然を舞台に探究的な学びを体験しました。

プロジェクト・ダーウィンとは、早川北小学校で長年培われてきた自然科学を中心とした探究的な学習と英語教育を融合させた特色ある取組であり、子どもたちの知的好奇心や探究心を育むことを目的としています。

参加者は、早川北小学校や南アルプス邑野鳥公園を会場に、ネイチャーガイドによる自然観察をはじめ、ムササビ調査、けもの道調査、池の生き物調査などに取り組みました。標本や資料を通して学ぶだけではなく、本物の自然の中で生き物や環境を観察し、自ら疑問を見いだす活動は、子どもたちにとって新鮮で印象深い体験となりました。

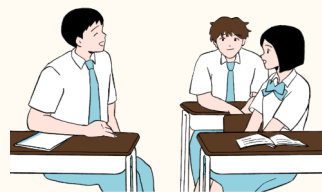
プログラムでは、「観察・記録・推論・仮説・検証・考察」という探究のプロセスを体験的に学びました。参加者は調査によって得られたデータを整理・分析しながら課題について考え、自分たちなりの結論を導き出しました。最終日の発表会では、調査結果や発見したことを堂々と発表し、互いの学びを共有する姿が見られました。

また、早川北小学校のALTがプログラム全体に帯同し、参加者は五日間を通して英語に触れながら活動しました。さらに、「Welcome to Konner's Secret Base」では、英語を用いた体験活動に親子で楽しく取り組み、自然科学の探究と英語による学びを結び付ける機会となりました。

雄大な自然の中で学び、考え、発表した五日間は、科学的な見方や考え方を育むとともに、自然への理解を深めるかけがえのない時間となりました。参加者は、早川町ならではの「本物の学び」の魅力を実感し、自然や科学への関心を一層高める機会となりました。



身延・南部地域 連携型中高一貫 教育事業



【防災セミナー】

七月三十日、身延高校において、身延・南部地域連携型中高一貫教育事業の一環として「防災セミナー」が開催されました。身延高校、身延中学校、南部中学校の生徒が参加し、身延町交通防災課の防災専門官による「防災から身を守るために」と題した講話を受けました。

その後、中学生と高校生が合同でワークショップを行い、シミュレーション訓練としてHUG（避難所運営ゲーム）に取り組みました。訓練では、次々に避難所を訪れる避難者への対応をゲーム形式で体験し、避難者の状況に応じた受け入れや避難所内の環境整備について話し合いながら運営方法を考えました。参加者は学校の枠を越えて協力し、防災について理解を深めるとともに、地域住民を支える避難所運営の重要性について学ぶ機会となりました。

【サマーセミナー】

八月五日、六日に身延高校において、身延中学校及び南部中学校の希望生徒五十九名を対象とした「サマーセミナー」が開催されました。

このセミナーでは、国語、数学、英語の三教科が開講され、身延高校の教員が講師を務めました。各講座では、高校入試を見据えた学習内容や効果的な学習方法について指導が行われました。

参加した中学生は、高校教員による授業を受けながら、基礎的な内容から発展的な内容まで幅広く学習しました。授業中には、生徒が積極的に質問したり、互いに意見を交わしたりするなど、意欲的に学ぶ姿が見られました。二日間の講座を通して、生徒たちは中学校での学習内容を振り返り、理解を深めることができました。また、高校での学習や生活への関心を高め、今後の進路について考える有意義な機会となりました。

防災セミナー



サマーセミナー



ジェンダー主流化

について考えてみよう！

in ぴゅあ峡南

七月三十日、山梨県立男女共同参画推進センターぴゅあ峡南において、「ジェンダー主流化について考えてみよう！in ぴゅあ峡南」が開催されました。当日は、町の男女共同参画担当職員や男女共同参画推進委員等が参加し、講師として、ジェンダー研究や地域づくり、NPO活動の分野で幅広く活躍されている萩原なつ子様を迎え、ジェンダー主流化について学びました。

はじめに参加者は、一九四五年の女性参政権の実現を出発点として、男女共同参画に関する法律や制度の整備の歩みをたどる「男女共同参画すごろく」を体験しました。制度や社会の変化を振り返ることで、男女共同参画推進の歴史や意義について理解を深めました。

続いて、参加者からの質問に講師が答える対話形式の研修が行われました。教育現場におけるジェンダーに関する課題や、



防災分野で女性の視点を生かした取組の必要性などをテーマに、活発な意見交換が交わされました。

また、令和八年三月に策定された国の第六次男女共同参画基本計画にも触れながら、地域における男女共同参画の推進や、多様な主体が連携した地域づくりの重要性について学びました。

ジェンダー主流化とは、政策や制度、事業の企画・立案から実施、評価に至るまで、あらゆる場面でジェンダーの視点を取り入れ、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す考え方です。今回の講演を通して、参加者は地域の実情に応じた男女共同参画の推進や、多様な主体が連携した地域づくりの重要性について理解を深めることができました。



企画・編集・発行

峡南教育事務所

[所在地] 南巨摩郡富士川町鯉沢771-2

[電話] 0556-22-8154

[FAX] 0556-22-8144 (担当: 篠原)

[サイト] www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html

「かけはし」をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。峡南教育事務所では、社会教育と地域教育の充実と発展に貢献することを目的に、年6回、奇数月に、地域教育情報誌「かけはし」を発行しております。

峡南地域での交流行事、社会教育・生涯学習に関する取組や行事等をぜひ取材させてください。お気軽にご連絡ください。